

共創と協働への扉

～『人と自然がきらめく 生活創造都市』の実現に向けて～



わが国は、めまぐるしく変化する社会経済情勢に加え、三位一体の改革などにより、これまで私たちが拠り所としてきた様々な枠組や制度は崩壊し、新たな社会を創造するための試行錯誤が繰り返される、激動の時代を迎えています。

こうした中、まちづくり市民協議会や議会をはじめ、市民の皆さんの総意と英知の結集により、長期のまちづくりビジョンとして、いわば、新たな歩みを始めた新「光市」の道標となる「光市総合計画」を策定いたしました。

改めて、関係者の皆様方に、心から感謝を申し上げます。

本計画では、激動の時代の中で、的確な現状認識と将来設計に基づくまちづくりを進めるため、都市経営の概念を導入するとともに、将来のあるべき姿や具体的な指標を掲げることにより、その将来像に向かって、「今すべきことは何か」を十分把握し、行動へと繋げていくための様々な工夫をいたしました。

申し上げるまでもありませんが、まちづくりの究極の目標は、市民の皆さん一人ひとりの幸せの追求であり、この光市がその名のごとく永遠にそのきらめきを放ち続けるためにも、あらゆる努力を傾注していくことが大切です。

しかしながら、極めて厳しい財政状況の中で、将来にわたって都市の経営を維持し、市民の皆さんの幸せや夢を実現していくことは、行政だけの取組みで成し得るものではなく、市民の皆さんの主体的な参画が必要です。

このため、「共創と協働で育む まちづくり」をまちづくりの根底に流れる基本理念と定め、このまちに生まれ、育ち、暮らす全ての市民の皆さんがまちづくりの主体となり、英知を結集し、支えあうことにより、誰もが幸せを実感でき、このまちに愛着と誇りを持てる故郷づくりを進めることにいたしました。

これからのまちづくりを支える発想と原動力は、ふるさと光市に暮らしこのまちを愛する市民の皆さん一人ひとりであり、その活動の原点は、皆さんの生活を育んできた一つ一つの地域です。

さあ、皆さん。

新市が誕生し、共創と協働への新たな息吹が芽生えつつある今こそ、新しい時代の流れを捉えて、新市の将来像である『人と自然がきらめく 生活創造都市』の実現に向けて、力強く、そして大きく、ともに手と手を携えて、支えあいながら、未来へと続く共創と協働への扉を開きましょう。

平成19年（2007年）3月

光市長 末岡泰義